



ただくま・まこと 1933 (昭和8) 年生まれ、万田西在住。趣味はウォーキングと弓道

荒尾少年少女発明クラブ
企画運営委員会副委員長兼専任指導員

多田隈眞さん

ことし創設31年目を迎える荒尾少年少女発明クラブ。6年連続での全国大会出場など目覚ましい活躍を見せるクラブを創設時から指導しているのが多田隈眞さんです。

定年前は、小・中学校(担当・技術家庭科)で教師を務めていました。現在は、月2回、小学4〜中学3年生の34人にロボット工作など、ものづくりの指導を行っています。

ものづくりを通して「ものを大切にする心」を学んでほしいと話す多田隈さん。「ものが簡単に捨てず壊れてしまっても、自分で治そうとする気持ちで育ててほしいですね」。

多田隈さんは物資の少ない戦時中に青春時代を過ごしました。限られた条件の中でも工夫を凝らし、ラジオを作るなどして、友人たちにプレゼントし、喜んでもらっていたそうです。

「子どもたちと電気の学習をするとき、電池の残量を測る機械を作るところから始めています。そうすることで、電

気の流れる仕組みを一から知ることができません」真剣にもものづくりに向き合うことで、いろいろな角度から物事を考えられる力が身につくといいです。「子どもたちが大人になったとき、豊かな発想のできるたくましい人になってほしいです」。

多田隈さん自身、大地震時、自動的に電気を遮断することで、火災を防ぐ装置を作るなど、さまざまなアイデアを世に送り出してきました。

「長年、ものづくりをしていますますが、いつも子どもたちの斬新な発想には驚かされます。子どもたちだけの力で何でもできるように導くことが私の務めだと思っています。手を貸し過ぎると、子どもたちのためにならないので、さじ加減に悩むこともあります。けれど、若く有能な指導員たちと共に、元気な限り、子どもたちともものづくりを楽しんでいきたいです」。

これからも多田隈さんと子どもたちは、新しい発想を武器に突き進んでいきます。



1_ 昨年8月、全国少年少女チャレンジ創造コンテスト地区大会に出場 2_ クラブでは、はんだごてなどの道具を使って作業を行います 3_ クラブの指導員。前列左から多田隈さん、福島さん、田上さん、川崎さん、後列左から中村さん、石橋さん
◆クラブでは新規会員を募集しています。詳しくは27ページをご覧ください。